

FIG 第2分科会－専門教育
2007-2010年の作業計画

1. 表題

専門教育

2. 要点用語

- カリキュラムの開発
- 学習と指導の方法と技術
- 教育の管理と市場活動
- 技術力向上教育の継続
- 教育と訓練のネットワークの構築

3. 活動方針

以下の事項を推進する。

- 大学及び他の教育機関が社会のニーズを調査し、知識の時代における必要な変革に専門的方法で対処するのを支援すること
- 測量技術者の学術的および専門的な能力の継続的な向上を助成するため、新しい教育方法を有する学術的な機関および企業を支援すること
- 教育ビジネスとカリキュラムの調整プロセスを推進すること
- 測量教育と訓練の国際的な調査を実施するとともにこの分野（カリキュラムの開発、教育資材の開発、共同コース、品質確保など）の共同プロジェクトを立ち上げるために幅広く開発試行を支援すること
- 知識ネットワークの活動を高めるため、FIG 分科会間の知識の交換を強化すること
- 世界各国の会員に教育の理論と実践に関する情報がよりよく普及するように努めること
- 国際地図製図協会、国際写真測量リモートセンシング協会、欧州地理情報研究所協会、国際測地学連合を含めた関連専門技術に関する国際的組織の教育分科会との連携を強化すること

4. 概要

昨期の経験に基づいて策定された第2分科会の2007-2010年の作業計画は、FIG評議会の作業計画を充足するものである。第2分科会は全体として以下のことを目標とする。

- 分科会代表員とFIG学会員の需要分析を行うこと
- 教育及びインターネットの基準を用いてFIGの測量教育データベースと利用手法をさらに発展させること
- 教育と訓練に関して生じている問題について年毎に作業部会を開くこと
- ネットワーク化された専門教育を支援するため、情報と通信の技術の利用について調査すること
- 教育の格差を解消し、若年専門家間の連帯を推進するため、他の分科会と協力して、

地域サマースクールを開催すること

当分科会の方針と目標は以下のワーキンググループが達成することになっている。

ワーキンググループ 2.1-カリキュラムの開発

古今変わることなく、良質なカリキュラムと指導は、思考力豊かで技術に秀でた専門家を育成するための教育と方法の基本である。今日の測量界を取り巻く社会、科学および技術は急速に変化している。これらの変化により、常に新しい教育と訓練が必要になっており、教育する側には、学ぼうとする者が出来る限り効果的かつ効率的に知識を習得できるように対応すべきことが求められている。

ワーキンググループ 2.2-e-ラーニング

知識を十分に普及させるためには最新の教育環境を整備することが不可欠である。情報と通信の技術の発達により、従来の授業方法を技術力で向上させる多くの可能性と手段が生み出されている。専門教育において e-ラーニングを用いる方法の果たす役割は増していくと期待されているため、これについてより認識を高めることが必要になっている。

ワーキンググループ 2.3-教育の管理と市場活動

知識の普及は方法論的または技術的な問題のみに限られるものではない。研究機関等は、刊行物等が如何にして他者に行き渡らせるかを営利的な観点も考慮に入れながら把握して然るべきである。急激に変わりつつある社会と専門教育における需要の変化に伴い、商業ベースの調査はより適切なカリキュラムの管理に役立てることが出来る。

ワーキンググループ 2.4-不動産の鑑定と管理の教育

急速に変化するこの分野に測量教育を適合させるため、第9分科会と共同で行う。

2006-2010の期間末までに第2分科会は測量教育の将来についての刊行物を配布する予定である。これは4年間の活動の主たる成果であり、以下のようなトピックスが含まれる予定である。

- 需要分析
- カリキュラムの開発
- 方法
- ウェブサービス
- 知識の蓄積
- 継続的な専門技術の開発と生涯教育の経験
- 教育用 SDI
- メタデータベース
- 世界的および地域的ネットワーク
- 市場活動
- 模範例

上記刊行を支援するため、当分科会は、次のことも実施する。

- ワークショップ
- サマースクール
- 共同プロジェクト

上記諸活動に加えて、当分科会は、FIG の専門委員会および標準化ネットワークに協力する。また新規事項があれば FIG 評議会に報告する。

5. ワーキンググループ

ワーキンググループ 2.1-カリキュラムの開発

作業項目

- 専門家、教員および学生間における資格証明による移動を支援すること
- ボロニア式段階（学士、修士、博士、高度専門家）と認証の履行を支援すること
- カリキュラム調整の促進を支援すること
- 核心的知識基盤を明確にすること
- 教育と訓練による生涯学習を保証すること
- 新しい専門技術の開発を支援すること
- 品質管理と認定について意見交換すること

(2007年6月7日-9日にチェコのプラハでワークショップ開催)

ワーキンググループ 2.2-e-ラーニング

作業項目

- 従来の対面授業から統合化された学習環境への同行、学術スタッフの役割変化について調査すること
- e-ラーニングの技術的、行政的、法的、組織的および文化的な問題について意見交換をすること
- 学習内容を普及させる方法（マルチメディア、CBT ネットワーク、Quizz ネットワークなど）および学生支援（VirtualClub/Library ネットワーク、通信技術、共同作業の手法）についての経験情報を交換すること
- 教育の接続サイトの機能を確認すること
- 教育のメタデータを普及させること

(2008年6月オランダのエンシェンデでワークショップ開催予定)

ワーキンググループ 2.3-教育の管理と市場活動

作業項目

- 測定の専門技術の新しい挑戦とそれに対する対応について観察し記録すること
- 学会員のための需要を調査して必要なサービスを提供すること

- 市場を分析して LLL ネットワークサービスで対応すること
 - CPD(継続的な専門技術の発展) の必要性を奨励すること
 - 新人募集および市場活動の経験情報を普及させること
 - プロジェクト管理及び品質管理のノウハウを普及させること
 - 測量を業務とすることについて学生を含めた若い測量技術者を奨励すること
 - 同期会を支援してその力を活用すること
 - トゥイニングのテーマネットワークを構築すること
- (2009年6月オーストリアのウィーンでワークショップ開催予定)

ワーキンググループ 2.4-不動産の鑑定と管理の教育

(第9分科会との共同ワーキンググループ)

作業項目

測量技術者は、従来から不動産の法律と市場の基礎について十分に教育されている。今日の社会では不動産の知識に対する要望は急速に広がっている。測量技術者にすべての伝統的な業務について一つにまとめたプログラムで教えることはもはや出来なくなっており、学生が現実に不動産経済を専門に出来るように実地的な選択科目を含めたプログラムでなければならない。このことは、多数の新しい仕事が生じている市場において必要になっており、いくつかの国の例に見られるように、このような教育は可能であり、学生にとっても市場にとっても非常に魅力的である。

各ワーキンググループの最終報告はシドニーで開催される FIG 評議会で報告される予定である。

(訳者) 馬場 義男

JFS 第2分科会委員長

国土建設学院 教務部長